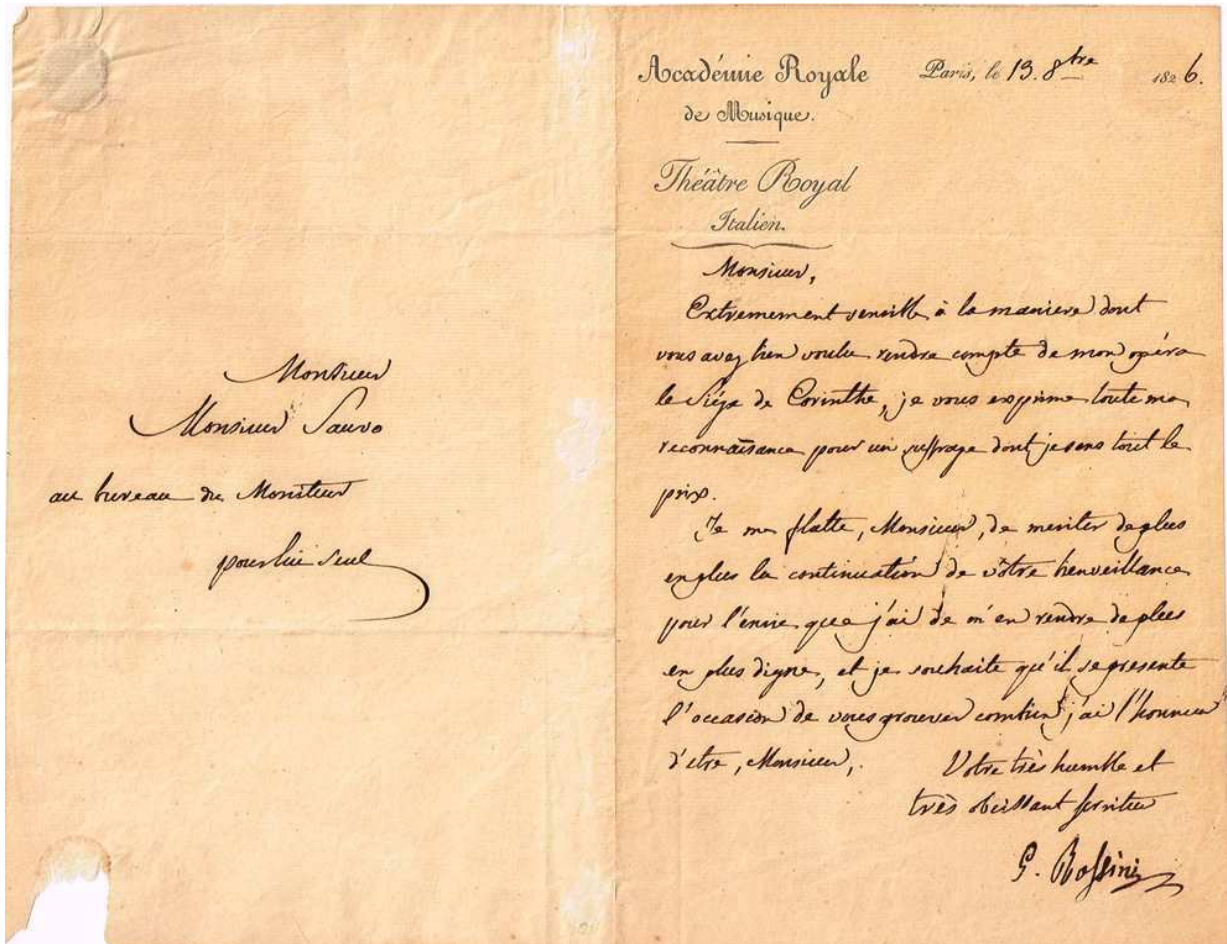


ロッシーニの書簡、自筆署名入り 1826年10月19日付

(水谷彰良コレクションより)

ロッシーニの署名入り書簡 『ル・モニテール』紙のサウロ氏宛、1826年10月19日付



A Monsieur Sauro., Lettera firmata di Gioachino Rossini Paris 19<sup>bre</sup> 1826.

[Collezione privata di Akira Mizutani - Tokyo]

解説

これは1826年10月19日の日付を持つロッシーニの自筆署名入り書簡で、『書簡とドキュメント』第3巻N.672に再録されている (pp.11-12)。

ロッシーニはその10日前の10月9日、パリのオペラ座(王立音楽アカデミー劇場 Théâtre de l'Académie Royale de Musique[サル・ル・ペルティエ])で《コリントスの包囲》を初演した。翌11日の新聞『ル・モニテール(Le Moniteur)』に掲載された長文の初演批評で作品が絶賛され、その後の評価にも良い影響を与えたことから、ロッシーニは評者サウロ(Sauro 註:フルネーム不詳。変名と思われる)にこの感謝の手紙を送った。用紙に王立音楽アカデミー劇場と王立イタリア劇場の共通便箋を使用し、署名以外の宛名と文面はその筆跡から王立イタリア劇場支配人カルロ・セヴェリーニ(Carlo Severini,1793-1838)と認定されている。

便箋のサイズは20.2×25.8 cm、開封の際に蠟印部分が剥離している(左下隅)。文面は、サウロが自分のオペラ《コリントスの包囲》を評価してくれたことに感謝し、「あなたのご厚情に値するようますます精進します」と述べている。

(2014年11月作成。水谷彰良)